
If

結健

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

If

【Nコード】

N5247I

【作者名】

結健

【あらすじ】

その剣は誰のために振るうのか。

その力は何のために与えられたのか。

すべては愛しい世界のために。

すべては大切なあなたのために。

時は中世、フランス。

天の聲に導かれ、

戦うことを沢んだ英雄たちの物語。

第1章 天の声

彼女の名はリアンといった。

リアンの住む小さな村・ドンレミ村では
楽しい祭を催していた。

その日は、リアンの幼馴染であり、
我が国フランスのために戦っている
ある軍のリーダーであるジャンヌが
帰ってくる日だった。

リアン「ジャンヌ、うまくいってる？
困ったことはない？」

ジャンヌ「ああ、うまくいってるよ。

リアンこそ、剣はうまく使えるようになった？」

ジャンヌは美しい女性だが、
口調も性格も男勝り。

リアン「うん。私もそろそろジャンヌの軍に入りたいなあ。」

村人たちが、火をつける。

リアン「きれいだね。」

ジャンヌ「ああ。また来年も見ようね」

リアン「もちろんよ。」

2人は微笑む。

―そのときだった。

村人「みんな、逃げろ!!!」

2人「!?!」

村人「魔物が・・・魔物がきたぞ!!」

リアン「魔物!?!」

ジャンヌ「なんだって!?!みんな、下がって!」

奥の方を見ると、
見たこともない魔物たちが。

ジャンヌは1人、前へ出た。

リアン「ジャンヌ、危ないよ、逃げよう!」

ジャンヌ「だめだ、倒さないと、村が・・・!!」

リアン「でも、これじゃあジャンヌが・・・
きゃっ!!!」

リアンは魔物に殴られた。

ジャンヌ「リアン！大丈夫か！！」

リアン「ジャンヌ・・・大丈夫だよ・・・」

そのとき。

「よう、讓ちゃん。」

ジャンヌ「！！ お前は…！？」

そこには、1人の兵士がいた。

ジャンヌ「・・・イギリス軍か」

兵士の男「フランス軍の統領とは
お前だな。」

ジャンヌ「魔物を村から出せ」

男「まあそう怒るな。俺たちはこの村を荒らしに来たんじゃない。
お前を確保するためだ」

ジャンヌ「私を確保してどうなる。殺すのか？」

男「まあ、最終的にはそうなるかもな。
でもお前の働き次第だ。」

ジャンヌ「私を囚につかうわけか」

男「いいから来るんだ」

ジャンヌ「行くわけがないだろう」

男「この村がどうなってもいいのか!」

ジャンヌ「じゃあ私が行けばこの村は守られるんだな?」

男「そうしよう」

ジャンヌ「分かった。」

リアン「えっ!? ジャンヌ、何考えてるの!!!? 殺されるかもしれないのよ!!!」

ジャンヌ「リアン、フランスを頼んだぞ」

リアン「ジャンヌ!!! 待って!!! ジャンヌ!!!」

リアンは立とうとするが、
体は痛みで動かない。

リアンは気を失ってしまった。

―倒セ・・・魔物ヲ

倒セ…憎キイギリス軍ヲ…

リアン「！」

リアンはどこからかきこえた声で目覚めた。

村人「ようやく目覚めたか。」

リアン「おじさん、ジャンヌは！？
魔物たちは・・・！？」

村人「…いないよ。」

リアン「え・・・。」

―戦ウノダ、フランスノタメニ・

リアン「(何、今の声・・・)」

―オルレアンへ行ケ。
ソシテ軍人トシテ戦ウノダ。

リアン「オルレアン・・・？」

村人「オルレアンにはジャンヌ軍があるらしいな。どうかしたか？」

リアン「おじさん、さっき声がきこえなかった？」

村人「さあ？」

それは天の声のようだった。

第2章

幼いころにイギリス軍との戦いに敗れ、
両親をなくしたリアンは、
村の親切な人たちによって、
宿屋で暮らしている。

それなのに、次は信頼できる友まで
いなくなってしまった。

リアン「おじさん、私、軍に入る」

村人「なんだって、それは危ないぞ。

お前はまだ未熟だ。

まだ早いんじゃないのか」

リアン「でも、ジャンヌを放っておいてなんかいられない。私が助けに行かないと・・・！」

村人「・・・。そうだな、リアンもう16だからな。村人たちにきいてみよう。」

リアン「ありがとう、おじさん。」

|||||

そして。

村人に見送られ、リアンはジャンヌ軍があるというオルレアンへ向かった。

リアン「ここが基地ね。」

ジャンヌ軍の基地は小さな平屋だった。

リアン「失礼します・・・」

ドアを開けると、いきなりライオンのような男が道をふさいだ。

ライオン男「何の用だあああ!!!!」

リアン「きゃっ!!!?!」

リアンは思わず後ずさりした。

これは、魔物なのだろうか？

ライオンと人間をかけあわせたような、
大きな体・・・。

リアン「こ、ここはジャンヌ軍の
基地ですよね？」

ライオン男「ん？なんだ、讓ちゃん。

そのしゃべり方は、仲間か？」

ライオン男の目つきがやわらかくなった。

リアンはその男がジャンヌの仲間だと悟った。

リアン「ジャンヌの友人のリアンです。

お願いします、

一緒に戦わせてください。」

ライオン男「そう言われてもなあ、

讓ちゃん、そんな細い体で・・・」

リアン「魔法攻撃ならできるし、

剣術だって使えます。

お願いします、ジャンヌを助きたいんです。」

ライオン男「そうか、あんた、大将の知り合いだったな。

けどなあ、戦うことは容易じゃないんだぞ。

あんたみたいな体じゃ、死に至ることも・・・」

リアン「少しでもお役に立てればいいんです」

ライオン男「うーむ・・・本当に役に立てんのか？」

??「よせ、ラ・イール」

リアン「？」

そこには、白い髭をはやした、魔法使いのような格好をした男がい

た。

?? 「戦いへの意思は伝わった。

ぜひ我がジャンヌ軍へ入ってくれ」

リアン 「本当ですか！

ありがとうございます。」

?? 「私はリシャール。かつてはジャンヌを統領に共に戦っていた。
彼はラ・イール。見ての通り、獣人だ。」

獣人とは、その名の通り野獣と人間が混ざった生き物のこと。
人間より一回り大きい。

リシャール 「もう1人いるんだが、
今はいないようだ。

近くの川で武器を洗っていると思うが、
探してこようか」

リアン 「いえ、私がいさつしてきます。
近くの川ですね。」

|||||

川原を歩いていると、リシャールの言う通り、
赤い髪をした槍を持った男がいた。

男は、槍の先をといでいた。

リアン「あ、あの」

男「なんだ」

リアン「ジャンヌ軍の方ですよね？」

男「そうだが・・・」

リアンは、自分の名前、ジャンヌとの関係、そして軍に入らせてほしいということを簡単に男に話した。

男「そうか、ジャンヌの・・・」

リアン「はい・・・」

男「彼女は強かった。心身共にな。だからたくさんの人がジャンヌと戦いたくて軍に入った。」

しかし、ジャンヌがいなくなってから、またたくさんの人が軍を脱退した。

そして、残るは俺とリシャルとラ・イールだけになったんだ。」

リアン「そうだったんですか・・・」

男「俺はジル。武器は槍だ。」

共に、フランスのため戦おう。

そして・・・ジャンヌを助けよう。」

リアン「はい！」

2人は基地へ向かった。

|||||

リシャル「ありがとう、リアン。

ジル、さっきラ・イールと話していたんだが・・・」

ジル「ああ、分かってる。

リアンをジャンヌのかわりに
たてようとするんだろう？」

リアン「え?？」

リシャル「やはりジルも考えていたか。

リアン、よくきいてくれ。

ジャンヌ軍は、ジャンヌをなくしてしまった。

つまり、統領をなくしたんだ。

だから、敵からしたら私たちの軍は
かなり狙いやすくなってしまう。

だから、少しでもジャンヌがいなくなったことを隠すため、
リアンに代わりになってほしいんだ。」

リアン「形だけジャンヌになる・・・ってこと？」

ジル「まあそんなところだ。」

リアン「もちろん、引き受けます。」

リシャル「統領になってもらうがいいかな」

リアン「・・・ええ。分かりました

（ジャンヌのためなら、
なんでもやるんだもん。）」

ラ・イール「新しい大将の誕生だぜえ！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5247i/>

If

2010年10月13日18時40分発行